

“ひがしなり”の名所と古跡

区内の社寺

区内には神社寺院がたくさんあり、それぞれの由緒をもち地域住民に古くから親しまれてきました。ここでは戸時代以前創建のものについて簡単に紹介します。

ひめこそじんじゃ

1 比売許曾神社…東小橋3丁目8番



下照比売(姫)命ほか五柱をおまつりする延喜式内明神大社で、垂仁天皇2年愛久自山(現在の天王寺区小橋東之町一帯の丘陵地)に下照比売命をおまつりしたのを起源とする大変古い神社です。『古事記』に、下照比売命(赤留比売)は新羅の王子の妻であったが、夫をきらって日本に来たとある渡来神とされる。推古天皇15年の正遷宮の際に天皇の行幸があり、貞觀元年(859)に神階を從四位に進められた歴史的に有名な神社です。天正年間(1580頃)の、石山合戦で兵火にあい現在地に移り、後に旧小橋村の氏神となる。今も多数の文化財を有しています。

やさかじんじゃ

2 八阪神社…中道4丁目8番



素戔鳴尊・菊理姫命の二柱をおまつりする旧中道村の氏神で、延喜9年(909)に藤原道長がこの地に別荘を設け、牛頭天皇・白山権現をおまつりされたのに始まるとされています。仁安元年(1166)里人が社殿を再興し、天正12年(1584)現在地に移転したと伝えられています。もと牛頭天皇白山権現と称していましたが、明治5年(1872)八阪神社と改称しています。伊勢神宮参拝のおりには、旅の無事を祈り詣でたとされています。

はちおうじじんじゃ

3 八王子神社…中本4丁目2番



八王子大神ほか四柱をおまつりする旧本庄村の氏神で、応神天皇3年の創建と伝えられ、孝徳天皇より高麗狗一対の献納があったと伝えられています。明治の初め頃は“椿の宮”として知られ賑わっていましたが、今は枯死してなくなっています。明治5年(1872)に八王子稻荷大明神から百濟神社と改称し、明治42年(1909)に旧西今里村の氏神八剣神社を合併し、明治43年八王子神社と改称しています。

くまのだいじんぐう

4 熊野大神宮…大今里4丁目16番



伊弉册尊ほか五柱をおまつりする旧大今里村の氏神で、用明天皇2年の創建と伝えられています。元亀元年(1570)石山本願寺と織田信長の合戦の際、兵火にあったがすぐに再建されています。元和(1615~24)以降、大坂城代就任と領内巡視の時は、必ず参詣するのを常とした社で、熊野権現と称し、明治5年に熊野大神宮と改称しています。明治44年には、旧東今里の氏神八剣神社を合併しています。

ふかえいなりじんじゃ

5 深江稻荷神社…深江南3丁目16番



宇迦御魂神下照比売(姫)命ほか三柱をおまつりする旧深江村の氏神で、垂仁天皇の時代、笠縫氏の祖が笠縫島の地に居を定め、下照姫命をおまつりしたのを始としています。慶長8年(1603)には豊臣秀頼が社殿を改造したと伝えられています。慶長19年(1614)兵火にて焼失、宝暦10年(1760)再興された。笠縫部との関係が深い。

みょうほうじ けいちゅう

6 妙法寺と契沖遺跡…大今里4丁目16番



妙法寺は聖徳太子の創建と伝えられ、寺域も広かったようであるが、往時の詳細は不明です。天正年間(1580頃)の石山合戦でほとんど焼失したが、享保年間(1716頃)の再建された本堂が昔を偲ばせています。この寺には、近世国学の祖といわれる契沖が、延宝七年(1679)から約10年間住職として滞在し、「万葉代匠記」など多くの著作を生み出しています。境内には契沖阿闍梨供養塔と契沖の母の墓があります。

けいちゅう

契沖(1640~1701)



尼崎藩士の子で11歳のとき出家して妙法寺に入り、高野山で修行した後、40歳のとき妙法寺の住職となり約10年間在職し、この間に主著「万葉代匠記」20巻を著しました。はじめ下河辺長流が徳川光圀から命じられて筆を進めていたが、病気のため契沖が代わりました。“代匠記”と名付けたのは師の長流に代わって著述したところからています。「万葉代匠記」が成って徳川光圀から褒賞金と三足の香炉が贈られています。元禄3年(1690)のとき、円珠庵(現在の天王寺区空清町)にこもって学問に専念し、その講義や学風は後の賀茂真淵や本居宣長にひきつがれています。



契沖遺跡

あおいもんさんそくこうろ
葵紋三足香炉

妙法寺に伝えられる大型の香炉、仏前に置いて香を燻くための道具。

白い京焼系統の作で正面に三つ葉葵の紋をつけ、この部分に青い上薬がかけられています。



葵紋三足香炉